



11月4日に行われた第28回岡山県学童陸上競技大会(岡山市・岡山県陸上競技場)のソフトボール投げ(女子)で県学童新記録を出した、巨瀬小学校6年・石川由花里さん。

これまでの記録を1m・49も上回る64m・21で、4年ぶりの更新です。

この競技を選んだきっかけは、地元の軟式野球チーム(城北ヒーローズ野球スポーツ少年団)の主力選手として、ボールを投げるのには自信があったためとか。野球は兄がやっていたため、興味を持ち小学2年生から始めました。

ソフトボール投げの練習は運動会が終わった9月中旬からほぼ毎日、放課後に行いました。最初は40m足らずしか投げられなかったといいます。先生とキャッチボールをしながら基本の投げ方を覚え、投げる角度を45度より低くならないように、助走を付けて投げるようにしました。また、友だちの投げ方のいい所も取り入れました。

かんば

るっ子



『やったよ!県新記録』

学童女子ソフトボール投げ 石川由花里さん(12) (巨瀬町)

その結果、記録はぐんぐん伸び10月20日に開かれた市内の大会である第35回高梁市東部地区学童陸上運動記録会(神原スポーツ公園)では56m・72の大会新で優勝。自信もつき、県記録を破ることを目標に頑張ったといいます。

「大会本番では、和やかな雰囲気で行うことができ、緊張することもありませんでした。予想以上に記録を伸ばせて、とても嬉しいです」と話してくれました。

担任の信原彰教諭(60)は「目標を持って熱心に取り組んだ成果です。クラスでは友達からの信頼も厚く、自分の考えや意見をしっかりとります。今回のことでもさらに自信がついたのでは。これからいろいろな面で頑張ってもらいたいですね」とエールを送ります。

第3回西日本選抜学童軟式野球大会では、高梁・真庭両市、加賀郡でつくる「高上川連合」チームの選手に選ばれた由花里さん。今は野球に夢中です。



ドリームファクトリー(川上町地頭)

代表 鈴木 貴雄さん(46)

絵ぶたづくり 仲間とともに

カ月以上かかるのに比べ、3週間程度で仕上げられるそうです。

とはいえ、それぞれに仕事を終えて、都合のつく人が集まり午後8時ごろから始めると、夜中まで作業が続く日も多かったとか。

大変な作業も「仲間がいるからこそできる」と声を揃える皆さん。仲間同士の、また制作を手伝ってくれる家族との親睦を深めるよい機会にもなっているそうです。

メンバーの一人、山本弘修さん(40)は「イメージしたとおりの形や色になったときは嬉しいですね。作るのは大変ですが、完成した自分たちの絵ぶたを見てくれたみんなの笑顔が何よりです」と話されます。

「マンガ絵ぶたまつり」の来場者は年々増えていると聞きます。「冬絵ぶた」にも、毎年多くの人が立ち寄り寄つて、作る側としては張り合いがあります。「冬絵ぶた」を見て、来年の夏にも行ってみようかと思ってもらえればいいですね」と代表の鈴木さん。

「冬絵ぶたイルミネーション」は午後5時から11時まで、点灯されています。



今年も「冬絵ぶたイルミネーション」が川上マンガ絵ぶた公園で、1月中旬まで開かれています。

この「冬絵ぶた」に向けて、制作作業を進める「ドリームファクトリー」の皆さん。地頭地区の40代を中心とした有志グループです。

毎年8月に行われる「マンガ絵ぶたまつり」には第2回から参加しており、昨年は大賞、今年も準大賞に選ばれました。6回目を迎える「冬絵ぶた」にも毎回参加しています。

今年の「冬絵ぶた」は、これまでに作った骨組みを再利用するなどして、ディスプレイキャラクターや来年の干支の亥などを描いた星形のものや雪だるまの4基を制作。木材と針金で作った骨組みの中に電球を配し、その上に紙を貼り、色付けをして仕上げていきます。

「冬絵ぶた」は高さ2m前後と夏の約3分の1の大きさで、夏は制作に2

吉備国際大学茶道部と 遠州流茶道

学校法人 高梁学園 広報室

学園だより



高梁学園には現在5つの設置校があり、うち吉備国際大学をはじめとする3校が高梁市に、残り2校は宮崎県の延岡市と宮崎市にあります。

現在「学校法人高梁学園紹介DVD」を製作中で、設置校5校の授業風景やクラブ活動などの撮影を行っています。11月17日は吉備国際大学茶道部の活動風景を撮るため、頼久寺を訪れました。本学の茶道部は週に1度、頼久寺のご住職からお茶の指導を受けています。部員数は21人。撮影当日は何人かの部員に着物を着てもらい、茶室で撮影を行いました。(写真)

頼久寺は、小堀遠州作庭枯山水の庭で県内外に知られていますが、この遠州が江戸初期に遠州流茶道を確立しました。遠州の茶道は、精神性を重視した利休の「わび茶」と違い、すべての人に楽しんでいただく、万人に分かり易い「綺麗さび」の世界とされています。茶室に多くの窓を設け光が入るようにしたり、茶室に向かう露地に景色を取り入れたり、お茶の世界に和歌を組み入れたり、幅広い層の人々が茶の湯を楽しめるよう独特の工夫がなされました。茶道部員に尋ねると、袱紗さばきや基本的な所作も裏・表千家のものとは違うとのこと。高梁の大学に通いながら、頼久寺という名刹で遠州流茶道を習うことは、学生たちにとって特別で幸運なことであると思います。優しくも厳しい住職のもと、和やかな雰囲気の中、先輩から後輩へ遠州の作法が伝えられています。

11月19日には、頼久寺で恒例の「遠州茶会」が盛大に開かれました。市民を中心に大勢の人たちが参加され、大学茶道部員もお手伝いとして大いに活躍したようです。

■問い合わせ 高梁学園広報室 (フリーダイヤル0120-25-9944/Eメールアドレス: koho@kiui.ac.jp)

編集後記

師走に入り、今年も残りわずかとなりました。ついでに、今年の抱負を決め一年のスタートを切ったような気がするのに、もう今年も終わり…。月日が過ぎるのは早いですね。

広報の仕事は大変なことも多いですが、「感謝」という言葉につきまします。取材に協力してくれる人との出会いにはじまり、四季折々の行事や自然を満喫できたり、100歳訪問などの貴重な場面に同席で

きたり…。多くの「感謝」でいっぱいです。今後は、生きていることや家族・仲間などへの「感謝」の気持ちを忘れずに、日々の生活や広報紙発行を頑張っていこうと思います。皆さんも「感謝」の気持ちを大切にしてみてください。来年も「広報たかひ」をよろしく願います。

(T・K)

次世代に伝えたい 伝統工芸コトコト馬

趣味で有漢地域の伝統工芸の一つであるコトコト馬や、神楽面・陶芸品などを作っています。

コトコト馬は、本来、旧正月行事の一つ「鍛初め(※1)」という豊作祈願に用いられたわら細工の馬です。しかし、現在は「鍛初め」の風習はなくなり、コトコト馬だけが祝いや商売繁盛の縁起物として飾られるようになりま



藤井 保さん(82)
有漢町有漢

お話し 聞かせて

した。2年ほど前から、地域の伝統工芸などを子どもたちに伝えるため、同年代の仲間と『うかん元氣じいちゃんズ』というグループを結成。学校や地域のイベントなどで、コトコト馬の作り方や昔の遊びなどを教えています。子どもたちは発想が豊かで、わらの代わりに色つきのリボンを使って独自の馬を作りあげ、伝統工芸品に触れながら、新しい魅力を自分たちで見つけているようです。私自身も若い世代の考えや発想に触れ、新しい発想が非常にやりがいがあります。今後も、地域の伝統を子どもたちやその親たちに伝え、地域みんなで伝統を守っていく手助けをしていきたいです。そのためにも、ずっと「元氣なじいちゃん」でいたいですね。

※1「鍛初め」

正月に子どもたちが各農家へ行き、コトコト馬を縁側や玄関に置いて雨戸や縁側を「コトコト」たたいて隠れて待ちます。それに気づいた家主は、コトコト馬を受け取ったお礼として、お餅などを縁側に置きます。子どもはそれを受け取り帰ります。

コトコト馬を受け取った農家では、翌朝、鍛とコトコト馬を持ち「ヤレポー、ヤレポー」と叫びながら苗代田へ向かい、一年の豊作を祈念します。「ヤレポー」とは「八重穂」の方言で「たくさん実りますように」という願いの言葉で